

## 夏休みの宿題はこれで完璧！

こども植物観察会

こども植物観察会が7月17日と8月21日の2日間、早水公園内の緑の相談所で行われました。夏休みの自由研究に役立てようと、市内の15組の親子が参加。初回で植物の押し葉作りを学んだ子どもたちは、新聞を使って乾燥させた押し葉を専用のテープで画用紙に貼った後、植物の名前を指導員に聞いて標本を完成させていました。兄妹で参加した徳田圭亮君（大王小5年）は「自宅周辺や曾於市まで行って40種類集めました。夏休みの宿題が一つできました」と出来栄えに満足していました。



## おいしさの秘訣は火山灰

火山灰を活用した灰干し講習会

新燃岳の火山灰を活用した特産品を開発しようと灰干し講習会が8月25日、地場産業振興センターで開かれました。三宅島などの被災地で灰干し作りに実績のある大学教授らが招かれ、干物作りを上演。参加者らは、セロハンで包んだ牛肉などの食材が灰で覆われていくのを興味深く見つめていました。また、魚の灰干しなどを試し、臭みのないふくらとした食感を確かめていました。川野賢一さん（山田町）は「自社の鶏肉に付加価値を付け商品化につなげた」と意欲を見せていました。



## 見えない世界を見て知って

点字図書館わくわく塾

視覚障がいのことを考えてもらおうと「夏休み！ 点字図書館わくわく塾2011」が8月26日、総合社会福祉センターで開催され、市内外から33人の親子が参加しました。盲導犬について学ぶコーナーでは、乙房町在住の高橋利幸さんと愛犬ドナが登場。ドナがコース内に置かれた障害物を避けながら高橋さんを誘導する様子を、参加者らは熱心に見学していました。そのほか、視覚障がい者用のパソコンの紹介や自分の名前を打った点字シールの作成を行い、視覚障がい者への理解を深めていました。



## 不要になった本を再利用

図書ふれあい広場

読書に親しむきっかけにしてもらおうと図書ふれあい広場が8月28日、ウエルネス交流プラザで開かれました。会場には、昨年の広場以降1年を通して、市民から寄贈された児童書や専門書、小説など、1万冊余りの本を準備。家庭で眠っている不用本が希望者に無料で提供され、訪れた人たちは目当ての本を手にとっていました。大野香織さん（荻原町）は「本が無駄にならないし、なにより普段は読むことのない新しいジャンルにも挑戦できるのがいい」と満喫していました。



## 感謝の思いを込めて

「長寿祝い湯のみ茶碗」窯出し

8月31日、吉之元町の都城焼霧島工房で長寿者に贈られる湯飲み茶碗の窯出しが行われました。同窯元の宇都野暁（あきら）さんが、毎年、100歳を迎える市内在住の長寿者へボランティアで寄贈を続けて今年で33回目。今年は、市内の長寿者57人へ、長寿者の名前と100歳と書かれた湯飲みを、息子の誠さんと約1カ月掛けて準備しました。宇都野さんは「豊かな日本があるのは先輩方のお陰。これからも元気で長生きして欲しい」と一つ一つ焼き上がりを手に取って確かめていました。



## 三味線も世紀を超える音色

百歳以上長寿者訪問

敬老の日を前に9月1日、市長や副市長らが市内の100歳以上の長寿者を訪問し、長寿を祝いました。市内で今年度中に100歳以上になる人は115人（男性17人、女性98人）。この日、長峯市長は、県内最高齢の胡摩ヶ野（こまがの）スミエさん（山田町、111歳）が暮らす市内の老人ホームを訪れ、祝い状や花束を贈り、長寿を祝福しました。市長が「これからも元気でいてください」と声を掛けると、胡摩ヶ野さんは「ありがとうございます」と手を合わせ、10代から愛用の三味線を披露しました。



## アマチュア芸術家の力作ぞらり

第58回都城美術展覧会

都城美術展覧会が9月9日から25日まで開催され、入選した絵画や書、写真など388点の作品が市立美術館で展示されました。今年は、噴火や地震災害からの復興への思いをテーマにした作品が多数入選。10日には鑑賞会が開かれ、実行委員らが入賞作品を講評して回り、訪れた人たちは受賞ポイントなどを聞きながら作品を鑑賞しました。絵画教室で油彩画を習っている田中豊子さん（南鷹尾町）は「講評が参考になった。入賞できる絵を描けるようになった」と意欲をのぞかせていました。



## ちびっ子発明家のアイデアいっぱい

都北地区学校創意工夫作品展

夏休みに子どもたちが製作した作品を展示する都北地区学校創意工夫作品展が、9月17日から19日までウエルネス交流プラザで開催されました。今年は、都城市と三股町の小・中学校の児童、生徒が、環境や福祉など身近な題材に着目した作品527点を出品。来場者らは、作品の説明書きを読んだり実際に触れたりして、子どもたちの発想の豊かさに驚いていました。野田グレイス愛（めぐみ）さん（東小3年）は「細かなところも工夫されてよくできている」と貝殻を使った作品を熱心に観察していました。



# 人の風景



山之内弥五郎どん祭り保存会会長

永徳えいとく 節男せつおさん

**弥** 五郎をはじめとする隼人族の鎮魂が起源ともいわれ、毎年

11月3日に開催されている山之内弥五郎どん祭り。身の丈4尺の巨人「弥五郎どん」を先頭に、的野正八幡宮から富吉小学校前の鳥居まで、およそ600mの参道を行列が練り歩きます。この祭りを企画運営する山之内弥五郎どん祭り保存会の会長を務めるのが永徳節男さん（山之内町・76歳）です。

弥五郎どん祭りは、弥五郎どんが練り歩く浜殿下りをメインに、山之内町内外の民俗芸能保存会による郷土芸能の披露に加え、山之内中学校の女子生徒による浦安の舞や富吉小学校の児童による俵踊りなども披露される、文字通り地域を挙げての秋の大祭です。

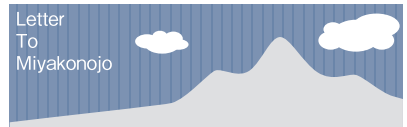
永徳会長は代々の会長の考えを引き継ぎ、地域のみならず祭りをつくりあげていくことをモットーとしています。例年、祭りの準備は4月から始まりますが、事務的な処理も含めるとほぼ1年掛かりの大仕事。

事。練習などの苦勞もありますが、「祭りの醍醐味は、準備から当日まで、地域の人たちと協力して祭りをやり遂げたときに得られる充実感」と話す永徳会長。

地域みんなでつくるこの祭りは、参加する子どもたちの通う学校や各自治公民館などの協力も得ながら、後継者の育成と指導者の確保に努めています。

合併以降、山之内町の祭りから都城市の祭りとして広く認められるようになり、祭りの来場者数が増加。加えて、10月末に宮崎市で開催される宮崎神宮大祭「神武さま」にも招待されるなど、その活動の範囲を広げています。

弥五郎どんは、山之内のほかに、曾於市大隅町の岩川八幡神社と日南市田ノ上八幡神社に祭られています。「伝統ある素朴な祭りを次の世代に伝えたい」との思いとともに、ほかの2体の弥五郎どんと合わせ「3兄弟」での祭り開催実現に夢を膨らませていました。



# 都城讃歌 【天の時】



川原 淳一さん

◎プロフィール

昭和31年8月2日生

都城泉ヶ丘高校卒業。平成21年6月より本県出身で初の宮崎総合鉄道事業部長就任。観光特急「海幸山幸」の運行を手掛ける。

生まれ育った三股から都城泉ヶ丘高校に入学したのは昭和47年のこと。お袋からたたき起こされ通学した田んぼ道も当時と変わらず稲穂いっぱいに実を付けている。2年前、故郷の宮崎で働く辞令を受けた。「観光特急海幸山幸の運行」・「九州新幹線の宮崎への波及効果」を託された。二つの課題は県民の皆様への期待と後押しを得て順調にすべり出した。何がどう変化したか。今や海幸山幸は全国から注目を浴び、2年目を迎えても人気の衰えを見せない。日豊本線では特急列車を車両一新し、増便するとともに客室乗務員を乗務させサービスアップを図った。更に新八代駅で九州新幹線

に繋ぐ「高速バスB&Sみやざき」を運行。博多から都城が2時間22分の陸路最速ルートができた。都城はどう変わっていったのか！ 都城駅では九州新幹線開業後、都城・広島・大阪等のお客さまが急増している。今後は、都城は南九州の交通ネットワーク拠点となることが期待される。「天の時は地の利に如かず」の利は人の和に如かず」とは孟子の言葉であるが、都城の地の利を活かすべくは、自治体、産業、交通の連携が不可欠である。地元出身者として深い愛着を持つ都城の発展に向け全身全霊で皆様とともに取り組んでいく所存である。

## 学校へ行こう

都城さくら聴覚支援学校

都原町7430番地 ☎22-0685



◎学校のシンボル

「校庭の桜」

4月は、校庭を淡いピンク色に染め、近くの桜並木ともども新入生を温かく迎えてくれます。

### 元気いっぱい 「さくらっ子」

都城さくら聴覚支援学校  
生徒会役員

高等部3年

岩切聡さん  
(右から2番目)

私たちの学校は、幼・小・中・高までの一貫教育で「豊かな心・強い心・感謝の心」の理念の下、自立を目指し日々、学習活動に取り組んでいます。幼児・児童・生徒数は少ないですが、みんなが兄弟のように仲良く、明るく伸び伸びとした学校です。年間行事として体育大会、文化祭などのほかに「ろう学校へ行こう」というものがあります。

これは、多くの皆さんに本校のことを知ってもらおう場で、高校生が中心となって企画し、講演やレクリエーションなどを行うなど、毎年、大変盛り上がりがあります。一般の人の参加も大歓迎です。

最後に紹介したいのが「都ろう太鼓」です。小学部と中学部に分かれて活動しています。小学部はかわいらしい、中学部は迫力のある和太鼓演奏を披露しています。

私たちは、このさくら聴覚支援学校が大好きです。これからも、全校生徒一丸となって学校を盛り上げていきたいです。